

# 小千谷鉄工電子協同組合

## 50周年記念

### 機械工業の生成と発展



本日は、50年前に当組合が設立した記念すべき日であり、周年を迎えるにあたり、私どもの業界がどのように誕生したのでしょうか振り返っていきます。

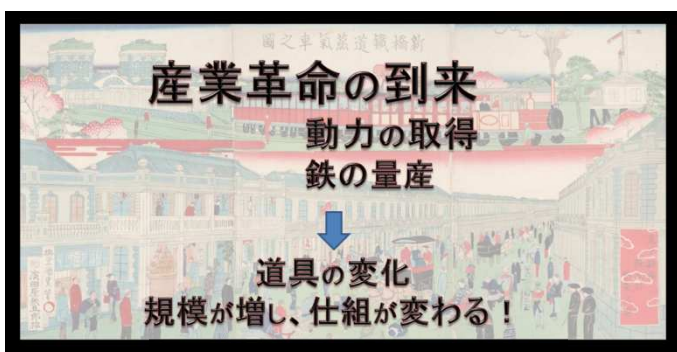
明治から昭和初期にかけ、新潟は重要な拠点でした。総務庁統計局によると明治21年(1888)に全国では約4千万人いました。その当時の新潟は全国一の人口で166万人も居ました。

各地で人が増え続けるなか、経済を活性化する必要がありました。そこで、新体制の日本が産業革命を背景に殖産興業を進展させ、特に軽工業の貿易の拡大を図っていきます。具体的な展開は次の2点です。

- ものづくりや物流を変える。
- 外交と軍事を強化する。

何故、新潟なのか。それは、孟子のことば“天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず”のとおりです。新潟は日本海に接し、広大で肥沃な越後平野、そして日本一長い信濃川があります。その地の利により、生産と物流が昔から盛んでした。また人の和として北海道から下関を經由して大阪まで物流を担った北前船があり全国につながりがありました。小千谷も同様です。付け加えるとしたら、地の利として、河岸段丘の雪深い地域だからこそ縮が根付きました。江戸時代から明治時代にかけて、多くの方が縮に係わって小千谷を行き交い、財を成しました。

(産業革命の波により、ものづくりや物流が変わってきました。動力の取得や鉄の量産化が図られことで、道具が見直され、生産の規模や北前船を介した仕組が変わってきます。)新潟そして小千谷は資源の国であり、水力発電や油田採掘に注目されていました。また、軍事拠点として飛行場があり、歩兵大隊の分遣隊が信濃川で訓練をしていたそうです。商いやものづくりそして軍事において事を為すには適当な地域であったこと物語っています。



## 機械工業の生成と発展

- ものづくりや物流を変える
- 外交と軍事拡大



小千谷石油(株)

1900年 創業

海発鍛冶屋

1902年 手回し旋盤の購入

小田島工業 (麻真田)

1917年 創業

理研旋盤小千谷工場

1937年 工場誘致

明治10 (1877)	明治27~8 (1894~5)	明治37~8 (1904~5)	大正3~7 (1914~8)	昭和14~20 (1939~45)
西南戦争	日清戦争	日露戦争	第1次世界大戦	第2次世界大戦

貿易の不均衡



明治から昭和初期にかけて、多くの戦争がありました。それは、列強国と肩を並べ貿易を良い条件で行うために、軍事力を強化する必要がありました。また産業を活性化するために、エネルギーの確保は命題であり、(1891年に日本石油が機械掘りに成功し、)油田開発が1900年前後に盛んになりました。小千谷にもその動きがあり、縮卸をはじめ地域の有力者が小千谷石油株式会社に出資し、油田掘削に手掛けています。他の会社も機械掘りで小千谷に参入し、油田開発が活況でした。そのような背景から海発鍛冶屋が1902年に手回し旋盤を購入し、パイプや機械類を製作したそうです。



一方で産業界では、(1893年に信越線<上野 ⇄ 直江津>が開通するなか)北前船で海産物の問屋をしていた小田島家が、1917年(大正6年)に帽子の素材として麻真田を欧米向けに生産しはじめました。そのころ生産性を高めるために、職人を集め、自前の設備を作らせたそうです。また、エンジン部品であるピストンリングの国産化に成功した理研を、有力者が小千谷に誘致することを働きかけ、1937年に決まりました。私たちは人の繋がりにより礎を築いてきたのです。詳細は長岡大学の松本先生が執筆された機械工業の生成と発展についてご一読ください。

明治時代	≡	昭和時代
大正時代	≡	平成時代
昭和初期時代	≡	(新年号) 時代

明治から昭和初期にかけて環境が変わったように、それ以降の昭和も三種の神器が普及し、平成でパソコンやスマホが浸透しました。これからの時代、IoT、AIにより職業や働き方の改革が迫られています。そして当組合も関わっていくことでしょう。

皆様のご健勝とご発展を祈念し、周年の挨拶に変えさせていただきます。